

30 HILLWIND

MIE
PREFECTURAL
ART MUSEUM
NEWS

春。華やかな季節は、時として哀感を誘う。滅びを予見したかのような桜の華やぎや、盛りが過ぎ去った後に残る、言い知れぬ虚無感。一瞬で色褪せる美しさに永遠の命を与えたいという願望は、どこか美術館の試みにも通ずるところがあるのかもしれない。そこでは、容赦ない時の流れに抗いながら、作品の状態を保つべく努力が重ねられているのだから。のどかな春の日、せわしく散る桜に心をかき乱されたら、時を経てなお魅力を失わない美術品に心の平穏を求めてはいかが。(Sm)



2

2012年度の展覧会

三重県立美術館はおかげさまで今年の9月25日に開館30年を迎えます。世代が交代するほどの長い活動期間。当時と比べ、世の中は大きく変わりました。当館は時代の変化に応じた取り組みを、多くの方々のご支援により実現してきましたが、一方で美術資料の収集・保存・展示という美術館本来の活動も変わらず重視してまいりました。今回は、そうしたさまざまな活動が実を結んだラインナップとなっています。

その記念すべき節目の年を飾る春の展覧会は、「受贈記念 榊莫山展 詩書画が紡ぐ風雅の世界」(4月7日―5月20日)です。当館では、伊賀市出身で詩情豊かな独自の詩・書・画一体の作品で知られた榊莫山氏のご遺志により作品108点の寄贈を受けました。戦後、書家としての歩みを始めた榊氏は1970年代後半から自身の詩・書・画による作品を発表、他方、篆刻や絵画や著述など幅広い分野で創作を重ね、今も多くの人から支持されています。

次に、6月2日からは開館30周年記念第一弾として「蕭白ショック!! 曾我蕭白と京の画家たち」(7月8日まで)を開催します。蕭白が伊勢地方で制作した作品は今も三重県内に多く伝わっています。今回の展覧会では修理を終えた、旧家永島家伝来の障壁画を中心に円山応挙や伊藤若冲など、同時代の絵師をまじえて蕭白の画業を振り返ります。

夏休み期間は久々の「子ども美術館」展。今年は「かわいってなんだろう?」をテーマに美術作品でかわいさの秘密を探ります。

そして、8月の後半からは、30周年を飾る特別展第二弾として「KATAGAMI style 世界が恋した日本のデザイン」展(8月28日―10月14日)を開催します。伊勢型紙は国の重要無形文化財に指定され、日本

を代表する伝統工芸品として知られています。この伊勢型紙は19世紀にヨーロッパに紹介されてヨーロッパの画家や工芸作家たちに大きな影響を与え、型紙の文様に触発された工芸や絵画作品が多数製作されました。この展覧会は、そうした伊勢型紙と西洋美術との関係を紹介する初めての試みとなります。

さらに、秋が深まる10月30日からは、「平櫛田中展」を開催します。長きにわたって日本近代彫刻史に輝き続けたこの彫刻家を代表作でたどります。当館は近代彫刻の紹介にも力を入れてきましたが、ついに平櫛田中の登場です。

最後に、来年1月からの3カ月間は、「コレクションの全貌展」と題しまして、当館の所蔵品やそれらと関わりのある作品や資料を2期にわたって大々的に紹介します。30年にわたるコレクションの歩みと美術館の歩みを是非堪能ください。(Ty)

1 榊莫山《東大寺ノ松林(大和八景)》1984年 三重県立美術館蔵

2 曾我蕭白《竹林七賢図》(旧永島家模倣、部分)1764年頃 三重県立美術館蔵

3 伊藤若冲《旭日松鶴図》(清水軒記念文化振興財団蔵)

4 モーリス・ドニ《ベロス・ギレンクスの鏡》1892年 オルセー美術館(カンパール美術館に寄託)
© RMN (Musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski / distributed by AMF

5 平櫛田中《法堂二株》1920年 小平市平櫛田中彫刻美術館蔵

榊莫山展

2012年4月7日(土)―5月20日(日)



榊莫山《寒山拾得》1994年 三重県立美術館蔵

期にわたり多彩な活動を行っていました。テレビに映し出された姿は、そのごく一部だったように思われます。

終戦後に莫山さんは、奈良で書家の辻本史邑(1895―1957)と出会ったことで本格的に書の道に進みます。昭和20年代後半から公募展に出品を始めた莫山さんは、前衛的な作品によって注目を集め将来を囑望されました。

しかし、昭和30年頃に莫山さんは所属していた団体を全て退会

し、一人で作家活動を開始します。美学者や文学者、哲学者など多くの先学に教えを乞いながら研鑽を重ね、莫山さんはその成果を個展に発表しました。そして、「土」や「女」、「樹」などの漢字一文字を大胆に扱った作品を経て、1970年代後半からは自身の詩・書・画をまじえた作品を発表するようになります。

こうした詩書画一体の作品によって、莫山さんは現代の文人と称され、おおらかでユーモラスな風貌とともに多くの人々から支持されました。莫山さんの活動は、中国や日本の書史研究や篆刻、絵画にも及び、多くの芸術家たちと交流を重ねる中で、他に例のない独自の芸術世界を築きました。

2011年に三重県立美術館は、莫山さんの遺志により作品108点の寄贈を受けました。今回の展覧会は、寄贈された作品を中心に莫山芸術の軌跡をたどり、このたぐい稀な芸術家の全貌を紹介しようとするものです。(M)

榊莫山《踊る文字群》1953年 三重県立美術館蔵

蕭白ショック!! 曾我蕭白と京の画家たち

2012年6月2日(土)―7月8日(日)

奇想の画家として人気の高い江戸時代の画家・曾我蕭白。京の商家に生まれた蕭白ですが、50年ほど前までは、伊勢地方の画家と考えられていました。少なくとも2度、三重を遊歴した蕭白は、県内に数多くの作品と逸話を遺しているのです。

三重県立美術館では、三重とかかわりの深いこの絵師を重要視し、開館当初から調査、研究を継続しています。その成果は、開館5周年記念展「曾我蕭白展」、開館10周年記念展「その後の蕭白と周辺展」、そして1998年「江戸の鬼才 曾我蕭白展」を通して紹介してまいりました。そして、開館30周年を迎える本年、「蕭白ショック!! 曾我蕭白と京の画家たち」展と題した、4度目となる蕭白展を開催することとなりました。

この展覧会では、6年の歳月をかけて修復を終えた、伊勢斎宮の旧家永島家伝来の障壁画(全44面、重要文化財、三重県立美術館所蔵)を中心に、蕭白の代表作、今回が展覧会初紹介となる作品を交えて構成していきます。また、蕭白前史として、蕭白が師事したとされる高田敬輔、京都で活躍した大西酔月ら復古的な画風の画家たちの作品も展観します。現在は知名度が高いとはいえないこれらの画家たちの作品と、蕭白作品とを比べていただく、またとない機会となることでしょう。さらに、18世紀の京都を彩った個性的な画家たち―円山応挙、伊藤若冲、



曾我蕭白
《松鷹図》(旧永島家遺贈)
1764年頃
三重県立美術館蔵

池大雅、与謝蕪村―の作品もご紹介し、蕭白のいた江戸時代中期のアートシーンをご覧いただきたいと思えます。蕭白作品に初めて出会おう方はもちろん、過去の蕭白展をご覧いただいた方々の心にも深く響く展覧会となるよう、現在準備を進めているところです。(Mm)

同時開催

「曾我蕭白と伊勢の近世美術」(仮称)

6月1日(金)

―7月16日(月・祝)

石水博物館

津市垂水3032番地18
059-227-5677

2012年8月28日(土) — 10月14日(日)

KATAGAMI。かたがみ、カタガミ、型紙。これをテーマにした展覧会と聞けば、一体どのような内容を想像されるでしょう。

2012年8月、三重県立美術館30周年特別展第二弾としてお送りするのは、日本の伝統工芸である「型紙」を軸に、ヨーロッパやアメリカの近代さらには現代美術まで横断する、全く新しい試みの展覧会です。

ここで言う型紙とは、江戸小紋や浴衣、手ぬぐいやのれんなどを染めるのに欠かせない道具を指します。和紙を柿渋で張り合わせたものに、特製の彫刻刀で、多種多様な文様を彫りぬいていきます。実はこの型紙、現在の三重県鈴鹿市が全国で唯一で使用される9割近くを供給していたという事実にも驚きます。それゆえ現在では、型紙なら「伊勢型紙」とされ、今も鈴鹿市では修業を積んだ職人たちが、江戸時代からの伝統を受け継いでいます。

19世紀後半、江戸から明治へと時代が移り変わるちょうどそのころ、何千何万枚という型紙がヨーロッパを中心とした海外へ輸出されました。今も欧米の有名な美術館・博物館には多くの型紙が眠っています。型紙のもつ斬新なデザインは、現地の画家やデザイナーたちに大きな影響を与え、各地で浮世絵に次ぐ、「もうひとつのジャポニスム」と呼ぶべき熱狂の渦が巻き起こりました。

展覧会は、国内外の70か所にもものぼる所蔵先から集めた作品約400点によって構成されます。ある時は絵画に、ある時は工芸に、ある時はデザインに。様々な形で織りなされる型紙をめぐる物語を、ぜひご堪能ください。(文)

コロマン・モーザー テキスタイル《神託の花》1901年
バックハウゼン・インテリア・テキスタイル社
バックハウゼン資料室、ウィーン

©Backhausen Interior Textiles GmbH Archiv
Backhausen Vienna

コロマン・モーザー
テキスタイル《神託の花》の下絵 1901年
バックハウゼン・インテリア・テキスタイル社
バックハウゼン資料室、ウィーン

©Backhausen Interior Textiles GmbH Archiv
Backhausen Vienna

展覧会公式サイト
<http://katagami.exhn.jp/>

三重県立美術館友の会へのお誘い

友の会は三重県立美術館を支える団体として活動しています。研修旅行、美術講演会、懇談会など、会員同士の楽しい交流や美術の教養を深める催しに参加できます。

■年会費

一般会員 3,000円 入会金 500円

ペア会員 5,000円 入会金 1,000円

■特典

会員鑑賞券配付、観覧料半額、美術館に関する情報提供のほか、レストラン、ミュージアムショップのご利用にも割引があります。詳細は、三重県立美術館友の会事務局(TEL 059-227-2232)までお問い合わせください。

公益財団法人 三重県立美術館協力会 賛助会員へのお誘い

美術館の調査 研究事業補助、カタログなど美術資料の作成頒布 鑑賞団体への援助など、美術館活動活性化のための事業をおこなっています。協力会の主旨にご賛同いただき、賛助会員へのご加入をお願いします。

■会費

年間一口

個人 25,000円 法人 50,000円

準会員 10,000円

■特典

展覧会ならびにレセプションへの招待、各展覧会毎のカタログ贈呈や美術館活動に関する情報提供などの特典があります。詳細は三重県立美術館協力会事務局(TEL 059-227-2232)までお問い合わせください。

三重県立美術館ニュース

30 HILLWIND

展覧会スケジュール

■企画展示

エトランジェー異国への眼差し展

2012年2月4日[土]～3月25日[日]

観覧料 一般 500(400)円

高大生 400(300)円

小中生無料

()内は20名以上の団体料金

休館日 毎週月曜日

●移動美術館「橋本平八と北國克衛」

会期 3月10日[土]～20日[火・祝]

休館日 3月14日[水]

開館時間 午前9時～午後5時

場所:伊勢市立伊勢図書館(伊勢市八日市場町13-35)

受贈記念 榊莫山展

2012年4月7日[土]～5月20日[日]

観覧料 一般 900(700)円

高大生 700(500)円

小中生 400(300)円

()内は前売りおよび20名以上の団体料金

休館日:毎週月曜日[4月30日(月)、5月1日(火)は開館]

■常設展示

美術館のコレクション

【第Ⅳ期】2011年12月27日[火]～2012年3月31日[土]

【第Ⅰ期】2012年4月1日[日]～7月8日[日]

※5月30日、31日は、都合により常設展示室を一部閉室します。

柳原義達記念館 柳原義達の芸術

【第Ⅳ期】2011年12月27日[火]～2012年3月31日[土]

【第Ⅰ期】2012年4月1日[日]～7月8日[日]

■メールマガジン 購読料無料

三重県立美術館の最新情報をみなさんのパソコン、携帯電話へお届けします。詳しくは、美術館ホームページをご覧ください。

利用のご案内

■開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日

月曜日(祝日休日にあたる場合は開館、翌日閉館)[7月17日(火)、9月18日(火)、10月9日(火)、2013年1月15日(火)、2月12日(火)]/年末年始[2012年12月25日(火)から2013年1月3日(木)]

■観覧料

【常設展示の場合】

〈美術館のコレクション+柳原義達記念館〉

一般 300(240)円

高大生 200(160)円

65歳以上の方、小・中生 無料 ()内は20人以上の団体料金

【企画展示の場合】

その都度定めます。

ただし、学校の教育活動として小・中・高・特別支援学校等の団体が観覧する場合、身体障害者手帳等をお持ちの方および付き添いの方1名が観覧する場合は無料。

■交通

津駅(近鉄・JR線)西口より徒歩約10分または、循環津駅西口(つつじが丘、むつみが丘経由)行き 総合文化センター行き2分、美術館前下車 ※できる限り公共交通機関をご利用ください。



三重県立美術館

〒514-0007 津市大谷町11

Tel:059-227-2100 Fax:059-223-0570 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

三重県立美術館ニュース「HILL WIND」No.30

■発行日 2012年3月9日(禁 無断転載) ■企画 編集 発行:三重県立美術館

■原稿末尾のイニシャルについては以下のとおり: 生田ゆき(Iy) 鈴村麻里子(Sm) 田中善明(Ty) 道田美貴(Mm) 毛利伊知郎(Mi)

■デザイン:豊永政史 ■表紙の作品:榊莫山《野路》三重県立美術館蔵

